

ニューズレター 2009 年度第 1 号

日本音楽表現学会 2009 年 7 月 31 日発行

日本音楽表現学会第 7 回（プロムナード in フォレスト）大会特集

目 次

	頁
1. 【巻頭言】「人に優しい」学会をめざして	谷口 雄資 2
2. 日本音楽表現学会第 7 回（プロムナード in フォレスト）大会報告	3
1) プロムナード in フォレスト大会を終えて	應和 恵子 3
2) 総会報告	3
3) 参加者の声	澤田 まゆみ／仲 万美子 9
4) 大会スナップ集	撮影：安藤 政輝／佐川 馨 10
3. 著作権に関する規定改正とその運用方針について	12
4. 【随筆】初出版に思うこと	新山 真弓 13
5. 【随筆】フェスティバル	寺内 大輔 13
6. 新入会員紹介	14
7. 会員によるコンサート案内	15
8. 会員による新刊紹介	17
9. 日本音楽表現学会論文集『音楽表現学のフィールド（仮題）』公募論文（アブストラクト）募集	17
10. 事務局からのさまざまなお知らせとお願い	18
・会費納入について	
・『音楽表現学』バックナンバー購入方法	
・ニューズレターへの投稿	
・学会の会員サポート制度をご活用ください	
・各種書式—「退会願」「後援願」「入会申込書」	
11. 日本音楽表現学会第 8 回大会のご案内	20
12. 役員名簿・編集後記	20

日本音楽表現学会

所在地：〒616-8025 京都市右京区花園土堂町 1-6

事務局：〒650-0044 神戸市中央区東川崎町 1-4-3-801 安田香気付

Tel. & Fax. 078-360-1443

E-mail: music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

http://www.soc.nii.ac.jp/jmexs/

年会費（5000 円）の振り込み→郵便振込口座：01370-6-78225 日本音楽表現学会



【巻頭言】

「人に優しい」学会をめざして

谷口 雄資 (会計担当理事)

第7回 (プロムナード in フォレスト) 大会が、爽やかな木々の緑に囲まれた宮城教育大学青葉山キャンパスにて盛会裡に開催されました。参加された会員の方々は、「杜の都」仙台の景観とその歴史ある佇まいに心癒され、大会の講演や研究発表から専門分野における新たな刺激や示唆を受け、音楽を見つめなおす機会を得られたのではないのでしょうか。

私が、日本音楽表現学会に入会し初めて参加したのは、北海道教育大学札幌校で開催された第2回大会でした。それまでは学会とはまったく縁がなく、学会と聞いただけで恐れをなし、そこに顔を出すことなど夢想だにしませんでした。たぶんそれは同僚達との会話のなかから、学会というところは偏屈な権威主義のかたまりで、心の通い合わない怖い所だと思い描いていたからでしょう。

北海道大会で自分の浅学非才も顧みず、おそろおそろ研究発表した折に、これまで危惧していたことが瞬く間に崩壊し、学会というもののイメージが大きく変わりました。そこには、威圧的で研究を真っ向から否定するような悪意に満ちた質問や意見はなく、発表者の研究を尊重し支援するような温かい雰囲気には満ち溢れていました。「あー！こんな学会もあるのか」と安堵し親しみを覚えたことを思い出します。

このように研究者を真摯にサポートするような環境作りが可能になったのは、中村前会長のお人柄と奥会長を初め学会設立に携わられた方々の熱い思いがあったからではないのでしょうか。これに関しては編集委員を務めている時に、次のような話を折に触れ伺うことができました。「我々はこれまで演奏技倆を磨くことに明け暮れてきた、研究用語の使い方や文章表現の稚拙さは仕方がない。できるだけその足りない部分を補完し支援していこう」とか、「学会という権威で、研究論文を切り捨てるのは簡単だ。それよりも研究者を育て、それぞれの研究への思いを結実させる手伝いをしよう」など、研究者を慈しみその研究内容を尊重していく、「人に優しい学会」の姿勢を伺い知ることができました。

さらに前回のベルギーリオ大会では、大会実行委員を体験し、理事の方々が裏方に回り記録や録音それに会費

の徴収やお弁当の配布まで、実に目立たない所で必死に大会を支えておられるのを目の当たりにすることができました。生れたての小さな学会では、理事がスタッフとして全ての事務的な仕事をこなしていくのは仕方がないことかも知れませんが、とにかく仕事を選ばず実に献身的に奉仕しておられる姿に共感したことを覚えています。

そして今回理事として初めて、プロムナード in フォレスト大会で受付に座りお金集めの見習いをしながら、應和大会実行委員長の温く細やかな心配りと、実行委員の方々の素晴らしいチームワークを肌で感じることができました。全国から現会員の半数に近い方々が参集され、実行委員の方々のお気遣い、会員の温かい気持ちから、持ち寄りで全国の美酒や名産が届けられました。その美味しさに酔いしれ、かなりカロリーオーバーになり、ダイエットに励まれた方も多いのではないかと想像しています。こんなところにも人のために奉仕するという学会の温かい精神が表れているのではないのでしょうか。

現在、学会のホームページの冒頭には学会の基本理念(設立趣旨)が掲載されています。この理念は、上記のような学会設立時の考えやスピリットを受け継いでいくために、会長諮問会議のメンバーの方々にもご協力いただいて起草されたものです。この基本理念の中には、本学会がここに集う人々をいかに大切にしていくのかという、設立に奔走した方々の熱い思いが凝縮されています。全ての人が音楽表現の研究者として対等に出会い、尊厳を認め合い、研究の協同を通して共に育つ場を創造していくという願いが込められているのではないのでしょうか。

このように「人に優しい」学会の伝統を継承し、皆様のお力をお借りしながら、共に会の発展に資することが出来ますことを願っています。



日本音楽表現学会第7回（プロムナード in フォレスト）大会報告

1. 「プロムナード in フォレスト」大会を終えて

大会実行委員長 應和 恵子（声楽）

2008年9月の奥会長との最初の打ち合わせから10ヶ月、毎日何通もくるメールに頭がクラクラした時期もありましたが、無事第7回（プロムナード in フォレスト）大会を終えることができましたのも、奥会長と安田事務局長のお導きによるものと、心から感謝いたします。

今大会には、学会員や当日会員、学生会員も含め129名の参加者があり、13日の夜の懇親会には84名の参加がありました。新型インフルエンザの影響で大会開催も危ぶまれた時期もありましたので、このように多くの方が参加してくださったことは、実行委員会として本当にうれしく、苦勞した甲斐があったというものです。

大会のハイライトはなんといっても基調講演とシンポジウムでしょう。星出豊氏の基調講演「音楽記号と音楽表現」は、先生のイタリア語の知識とご経験からくる内容の密度の高さにフロアがシーンと静まり返り、

真剣に聞き入っていたのが印象的でした。シンポジウム「音楽創造における楽譜の意味」では、小畑郁男氏の司会のもと、演奏する立場からピアノの赤松林太郎氏、指揮の星出豊氏、作曲する立場から吉川和夫氏の3名のそれぞれのお立場での楽譜に対するお考えを伺い、フロアからの活発な質問とそれに対するご意見のやり取りで非常に盛り上がりました。

私個人としましては、今回の第7回（プロムナード in フォレスト）大会大会で、副委員長の佐々木正利氏を始めとして宮城教育大学の優秀なスタッフと東北地区の強力な実行委員の仲間に恵まれたことは、委員長として本当に幸せだったと感じております。そして、確かに大変でしたが、最後には「楽しかったね」と笑い合うことができたこの大会は一応成功といえるだろうと自負し、皆様のご協力に心から感謝いたします。

来年の京都大会、楽しみにしております。

2. 2009年度総会報告

日 時：2009年6月13日（土）15:50～17:00

場 所：宮城教育大学 220 教室

出席者数：61名、委任状67通 合計128名（会員総数：2008年6月13日現在271名）

記 録：今 由佳里 さん

1. 開会の辞：奥忍会長より開会の辞が述べられた。
2. 議長選出：勝谷 友一さん
3. 報 告：「総会資料集」記載事項に基づいて、以下の順に報告され、すべて承認された。

1) 2008年度事業報告（2008年4月1日～2009年3月31日）

1. 第6回（ベル・ジューリオ）大会 2008年6月14日（土）～15日（日） 於：昭和音楽大学新百合ヶ丘キャンパス
2. 理事会 第1回 2008年6月14日（土） 於：昭和音楽大学新百合ヶ丘キャンパス
第2回 2009年3月17日（火） 於：キャンパスプラザ京都
その他 電子媒体による持ち回り会議
3. 編集委員会 第1回 2008年6月14日（土） 於：昭和音楽大学新百合ヶ丘キャンパス
第2回 2008年8月11日（月） 於：杉江編集委員長私設作業場（大津市）
第3回以降 電子媒体による持ち回り会議と編集作業等
4. 学会誌『音楽表現学』Vol.6 発行 2008年11月30日（火）
5. ニュースレターNo.1 発行 2008年7月31日（土）
No.2 2008年11月30日（火）
No.3 2009年3月31日（火）

6. 2008 年度名簿発行 2008 年 11 月 30 日(火)
 7. 学会HP全面更新 2009 年 3 月 31 日(火) (*2009 年 4 月 1 日公開)
 8. 後援 17 件
 9. 会員数 259 名 (2009 年 3 月 31 日現在)

2) 第6回 (ベル・ジーリオ) 大会決算報告

【収入】	費 目	金額(円)	備 考
	大会参加費	529,000	学会員：5,000 円×86 名 当日会員：(1 日につき) 3,000 円×31 名 学生会員：(1 日につき) 2,000 円× 3 名
	広告・ブース料	336,275	
	合 計	865,275	
【支出】	費 目	金額(円)	備 考
	基調講演 講師謝礼	100,000	謝礼 50,000 円+旅費 (札幌ー東京)
	シンポジスト等謝礼	20,000	非会員 10,000× 2 名
	会場費	50,000	
	印刷費	220,000	『大会要項』、大会資料作成
	人件費 当日アルバイト (含昼食)	66,100	アルバイト+弁当代
	実行委員会会議費 (含交通費)	0	
	通信費	30,130	大会要項発送および事務局-会場連絡宅急便等
	楽器調整費	41,000	ピアノ 調律費+箏調整費
	雑 費	22,499	
	一般会計へ繰り入れ	315,546	
	合 計	865,275	

3) 2008 年度会計報告・監査報告

【収入】	費 目	予 算	決 算	備 考
	2008 年度学会費 (会員数 260 名)	1,300,000	805,000	5,000×161 名=805,000
	過年度分	50,000	175,000	5,000× 35=175,000 円
	次年度以降の前納分		55,000	5,000×11=55,000
				合計 1,035,000 円
	賛助会員会費	5,000	5,000	
	学会誌売り上げ	50,000	43,610	
	利息	1,000	1,817	三井住友：1,511 円 郵 貯：306 円
	大会から繰り入れ	202,000	315,546	
	未処理金		1,636,811	
	前年度繰越	111,124	111,124	
	合計	1,719,124	3,148,908	
【支出】	費 目	予 算	決 算	備 考
	『音楽表現学』印刷費	700,000	724,000	
	ニューズレター作成費	50,000	11,115	
	名簿 作成費	50,000	0	用紙は事務局所蔵分を充当
	理事会 会議費	10,000	10,957	
	交通費	100,000	122,480	
	編集委員会 会議費	10,000	7,612	
	交通費	100,000	101,500	
	通信費	100,000	161,016	

学会費払込手数料	20,000	14,465	
雑費	30,000	99,488	
小計	1,170,000	1,252,633	
次年度繰越	549,124	396,275	
学会基金		1,500,000	
合計	1,719,124	3,148,908	

以上の通り報告いたします。

2009年6月1日

柳井 修

谷口 雄資

監査の結果、以上に間違いありません。

2009年6月5日

若井 健司

加藤 晴子



4) 年会費納入状況について

年月日	08年度未納者(名)	07年度以前の未納者(名)	未納率(%)
08/09/18	61	31	37
08/12/26	37	25	24
09/03/31	20	20	15

5) 学会基金について：この5年間の未処理金は「学会基金」として処理する。

「08年度予算」に計上された次年度繰越金	549,124円
2009年3月31日現在高	2,185,935円 内訳 会費 374,444円 郵便局 604,152円 銀行 1,191,522円 所持 14,000円 利息 1,817円
未処理金(現在高一次年度繰越金)	1,636,811円

6) 2009-10年度 編集委員会委員の依嘱について

再任	新規
編集委員長：小西 潤子 委員：小畑 郁男 佐野 仁美	伊野 義博 河本 洋一 木下 千代

7) 2009-10年度 選挙管理委員の依嘱について

8) 2009-10年度 会計幹事の依嘱について

委員長：坂東 肇 委員：中 磯子、井上 朋子	再任：加藤 晴子 新規：長岡 功
---------------------------	---------------------

9) 各種書式：承認された書式を本誌 p.19-20 に一括して掲載しています。

10) その他

(1) 会長諮問会議の正式名称について：「会長諮問会議」とする。

メンバー（安藤政輝、草下實、中村隆夫の3氏）については2008年度総会において承認済。

(2) HPリニューアルについて <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jmexs/>をご覧ください。

4. 協議：議案は説明を加えながら提案され、一部修正・検討の上、以下のように承認された。

1) 2009年度事業計画 (2009年4月1日～2010年3月31日)

1. 第7回(プロムナード in フォレスト)大会

2009年6月13日(土)～14日(日)	於：宮城教育大学青葉山キャンパス
----------------------	------------------
2. 理事会

第1回 2009年6月13日(土)	於：宮城教育大学青葉山キャンパス
第2回 2009年10月～3月	於：未定
その他	電子媒体による持ち回り会議
3. 編集委員会

第1回 2009年6月13日(土)	於：宮城教育大学青葉山キャンパス
第2回 2009年8月	於：未定
第3回以降	電子媒体による持ち回り会議と編集作業等
4. 選挙管理委員会 (第1回)

2009年6月14日(日)(予定)	於：宮城教育大学
2010年度選挙公示	2009年11月30日(月) 於：「ニューズレターNo.2」誌上
推薦・立候補受付期間	2010年1月8日(金)～2月8日(月)
第2回選挙管理委員会	2010年2月13日(土)(予定) 於：未定
投票期間	2010年2月15日(月)～3月15日(月)
第3回委員会	2010年3月20日(土)(予定) 於：未定
その他の議事と作業	電子媒体による持ち回り会議
5. 学会誌「音楽表現学」Vol.7発行 2009年11月30日
6. ニューズレターNo.1発行 2009年7月31日

No.2 2009年11月30日	
No.3 2010年3月31日	
7. 学会論文集編集委員会 第1回 2009年6月14日(日) 於：宮城教育大学青葉山キャンパス
8. 後援 30件
9. 会員数 270名

2) 第7回 (プロムナード in フォレスト) 大会予算

【収入】	費 目	金額(円)	備 考
	大会参加費	450,000	
	広告・ブース料	300,000	
	合 計	750,000	
【支出】	費 目	金額(円)	備 考
	基調講演 講師謝礼	80,000	
	シンポジスト謝礼	10,000	非会員シンポジスト
	会場費	0	大学共催による
	印刷費	260,000	『大会要項』、ちらし、大会資料
	人件費 当日アルバイト (含昼食)	110,000	
	実行委員会会議費	20,000	
	通信費	50,000	大会要項発送および事務局-会場連絡宅急便等
	振込手数料	5,000	
	楽器調整費	40,000	ピアノ調律費およびアトラクション関係
	雑 費	30,000	
	一般会計へ繰り入れ	145,000	
	合 計	750,000	

3) 2009年度予算

【収入】	費 目	予 算	参考 2008年度	
			予 算	決 算
	2009年度学会費 (会員数270名一前納分)	1,225,000	1,300,000	805,000
	過年度分	150,000	50,000	175,000
	次年度以降前納分			55,000

賛助会員会費	5,000	5,000	5,000
学会誌売り上げ	50,000	50,000	43,610
利息	1,500	1,000	1,817
大会から繰り入れ	145,000	202,000	315,546
未処理金			1,636,811
学会基金	1,500,000		
前年度繰越	396,275	111,124	111,124
合 計	3,472,775	1,719,124	3,148,908

【支出】

費 目	予 算	予 算	決 算
『音楽表現学』 印刷費	750,000	700,000	724,000
ニューズレター 作成費	20,000	50,000	11,115
名簿 作成費	0	50,000	0
理事会 会議費	10,000	10,000	10,957
交通費	150,000	100,000	122,480
編集委員会 会議費	10,000	10,000	7,612
交通費	120,000	100,000	101,500
選挙管理委員会 会議費	10,000	0	0
交通費	20,000	0	0
郵送費(80×270×往復)	43,200	0	0
通信費	170,000	100,000	161,016
学会費払込手数料	20,000	20,000	14,465
雑費	100,000	30,000	99,488
小 計	1,423,200	1,170,000	1,252,633
次年度繰越	549,575	549,124	396,275
学会基金	1,500,000		1,500,000
合 計	3,472,775	1,719,124	3,148,908

4) 学会リポジトリと『音楽表現学』等掲載論文の著作権について

リポジトリと『音楽表現学』等掲載論文の著作権については切り離して、協議が行われた。著作権に関しては、原案通り「学会誌掲載の論文等の著作権は3年間学会に帰属する」ことが承認された。なお、リポジトリ等の問題については、慎重に検討を重ねることとなった。

- * その後理事会ではリポジトリについて検討を重ねました。詳しくは本ニューズレターp.12「著作権に関する規定改正とその運用方針について」をご覧ください。

5) 日本音楽表現学会会則の改正 退会に関する条項の追加

改正 「第二章 会員」	現行
第8条 退会の手続きおよび承認は、次の通りとする。 (1) 退会を希望する者は、当該年度までの年会費を納入の上、学会宛て「退会願」を事務局に提出し、理事会の承認を得る。 (2) 会費を連続3年間未納の会員には、事務局から本人に通知した上で除名する。 附則 4. 2009年6月13日改正。	なし。

6) 「機関誌『音楽表現学』投稿規定」の改正 投稿要領の整備および著作権に関する条項の追加

改正	現行
4. 投稿要領 (2)原稿の形式および分量。3つ目の中黒・ワープロ原稿を原則とし、A4 版縦置き、横書きとする。字数は、日本語の場合は1ページ2352文字を標準とする。欧文の場合は1ページあたり概ね1000語を目安とする。 7. 学会誌掲載の論文等の著作権は3年間学会に属する。 8. 投稿先および問い合わせ先	4. 投稿要領 (2)原稿の形式および分量。3つ目の中黒・ワープロ原稿を原則とし、A4 版縦置き、横書きとする。字数は、日本語の場合は1ページ2352文字を標準とする。欧文の場合は1ページあたり概ね1000語(2段組、各段56字×42行)を目安とする。

3. 大会参加者の声

1) 学会、大会への初参加、初発表をとおして

澤田 まゆみ (ピアノ)

まず仙台駅に降り立ち、宮教大行きのバスのりばに行きましたら、まあ個性あふれるスタイルと服装に身を包まれた方々がいらっしやって、今回は様子見で少々スタンダードすぎる服装で来た自分自身を恥らいつつ、さすが音楽表現に携わる方々、と期待に胸を膨らませました。

総会やシンポジウム、各発表も大変和やかでアットホームながら、会員の皆様の懸命さと情熱が感じられる、大変心地よい2日間でした。

自身の初発表は一演奏者として、演奏者だからこそ可能な分野といひましようか、解釈や視点といったものができたのが、私にとっ

、それでもこのような発たので不安だらけでした。集まりいただき、かつ、

質疑の際には、声楽、音楽史、音楽学的な見地から大変意義深いご質問とご見解をいただくことができました。まさに期待以上の反応をいただき、心より感謝申し上げます。この学会ならではの楽しさと充実を心から実感することができました。

他方、徐々に学会員数も増え、体制も整ってきていることと存じますが、私のような新会員にとっては、学会が唯一皆様とお会いできる機会です。参加者名簿がありましたら、更にいろいろな方とお会いできたり、研究を深める機会もひろがったのではないかと思います。

いずれにしても、もう来年の京都大会を今から楽しみにしています。今後とも末永くどうぞよろしく願ひいたします。感謝をこめて。

心」に響いた研究発表の「こえ」

仲 万美子 (比較音楽文化学)

会場校に入ると、これらみ、オープニングの演迎パフォーマンス「さんまり、本学会の特色を肌出豊氏の基調講演は、ご場ある口調で語られるイ場をこまめに渡り歩き、講義や研究の新たなるヒその中から紙幅の関係でいくつかについて記してみたいと思います。最初に「音楽を専門としない学生によるミュージカル公演」の制作プロセスを明解に読み解かれた今由佳里氏の報告では、大学生の活動が地域と一体となり展開し、学生それぞれが表現行為を介してアーツマネジメントを修得していることの意義が伝わり、大学の正規科目内容にも参考になるものでした。そして村岡哲至・橋本智明両氏の報告では、ライブパフォーマンスでの表現者

と観客、観客間に発生する「一体感」の発生のメカニズムについて、自らの演技による実験上演の観察結果の緻密な分析をされた興味深いものでした。また、将来「音楽系メディアアート」のプロとして活動することを目指しうる高度な教育内容を提示された中村滋延氏の報告も、すでにゲーム世代が在学している現代の状況を再認識させ、報告終了後も多くの参加者が熱心にパソコン上の画面操作について質問を寄せておられました。最後に、「音楽における異文化受容5」のパネルディスカッションでは、音楽的感性が社会の変化と密接な関係を持つことがそれぞれ異なる世代の報告者の発言から明確に描きだされ、そこには各種メディアの特性が包含されていると同時に、異なる分野でのディスカッションへの期待も膨らみました。「杜の都」での大会も、新たな研究テーマを持ち帰ることのできる有意義な場となり、参加者各自の「心」に深く響くものでした。

4. 大会スナップ写真集

大会期間中の写真を見ると、こんなにも多くの方々が参加して下さったことを改めて感じます。身振り手振りを交えた表現豊かな発表風景、司会者やフロアの会員の楽しげな、微妙な、熱っぽい反応など、掲載したい写真は多かったのですが、スペースの関係で掲載することができませんでした。残念です。(編集担当のつぶやき)

2009 年度総会では、議題（４）につきましては、総会時に多くのご意見を頂戴しました。「機関誌『音楽表現学』投稿規定」の改正につきましては、新規条項として「学会誌掲載の論文等の著作権は３年間学会に帰属する」を付け加えることで決定しています。その後、理事会では総会での質疑・意見を受けて以下のように整理し、方針を明確にいたしましたのでご報告いたします。

1. 運用は、下記の方針にしたがう。

学会が刊行する著作物の著作権については、発行後３年間は学会に帰属するものとし、2009 年 6 月 13 日以降発行される著作物について適用する。

なお、著者自身による学術・教育目的、作曲活動や演奏活動のための複製、翻訳、翻案の形での利用（著者自身による著作物や演奏会プログラム等への転載、著者自身のウェブサイトへの掲載、外国語への翻訳、複写・配布等）については、出典を明記した上で、論文の全部または一部を利用できるものとし、学会に許諾申請をする必要はない。

上記の目的以外の場合については、著者は学会に許諾申請をする必要がある。また、著作権が学会に帰属する３年間は、論文全体を機関リポジトリ等で公開することは原則として認めない。

2. 著作権が学会に帰属する期間についての補足説明

- ・本改正の趣旨は、著者自身の活動に制限を加えるものではない。学会の利益を不当に侵害しない範囲において、著者自身による当該論文等の個人使用については最大限認め、学会の許諾は必要ないものとする。
- ・本学会の活動が会員全員の会費によって成り立っていることをふまえれば、学会が刊行する著作物に掲載された論文等は学会にとっての財産である。本学会では、紙媒体での学会誌等の在庫がある期間の目安として３年間を定め、その間の著作権については学会に帰属するものとする。所属する大学等の機関リポジトリなど、本学会以外の組織を通じてインターネット上に著作物全体を広く公開することは、３年を経過した後可能となる。
- ・出典を明記した上での著者自身の個人使用を除き、当該論文等について著作権（複製権、上演権、演奏権、上映権、公衆送信権、口述権、展示権、頒布権、譲渡権、貸与権、翻訳権、等を含む）に関わる使用をする場合には学会の許諾を得るものとする。

- ・現在のところ、本学会独自で学会誌を電子化してデータベース、リポジトリを構築する段階には至っていない。したがって、紙媒体の学会誌を手にとりて頂くことを前提としたサービスとして、学会ホームページの『音楽表現学』の項目の部分には、『音楽表現学』の掲載論文等の著者名・タイトルに加えて、要旨・キーワードを掲載する。

- ・将来的には、多くの学会がオンライン検索可能な電子図書館に学会誌を登録する方向にあると考えられる。しかし、電子ジャーナル化するための人的組織や予算も検討して、国立情報学研究所（NII）、科学技術振興機構（JST）等との連携も視野にいれながら、前向きかつ慎重に検討していくこととする。

3. 問題の背景と今後の課題について

インターネットを通じて様々な情報を簡単に得ることができる今日、研究成果の蓄積・保存・公表の方法は急速に変化している。国際的な動向をふまえ、日本でも国立情報学研究所や独立行政法人科学技術振興機構等がオンラインジャーナル編集出版システムや電子アーカイブ事業などを進めている。そこでは、インターネットを通じて投稿したり、査読を行ったりすることができ、採択された論文等はインターネット上の電子図書館で公開される。タイトル、著者名、誌名、巻号などから容易に検索でき、過去に遡って PDF 化された全文を読むこともできる。東洋音楽学会、日本教育学会、日本体育学会、国語学会など、このシステムを活用している学会も少なくない。

それと同時に、各大学や学術機関では、インターネットを通じて利用可能な電子書庫を作り、その機関に関わる人々によって生み出された研究成果を蓄積保存することによって、教育研究活動の成果の収集、組織化、保存及び発信を始めている。この電子書庫のことを、リポジトリ（repository）（もとの意味は「容器・倉庫・宝庫」）と言っている。電子書庫にいたからといって、著作権は委譲されるわけではないが、電子書庫はインターネットにより広く公開されるものであるため、著作権者は、著作権のうちの「複製権」と「公衆送信権」の行使を、リポジトリの所有者に対して許諾するということになる。

こうした動きのなかで、本学会が刊行する著作物に蓄積されてきた貴重な研究を今後どのように保存し、蓄積し、公開していくのか、先を見通した学会の対応が求められている。（文責：権藤敦子）

【随筆】

初出版に思うこと

新山 眞弓（ソルフェージュ）

このたび、「音楽表現のための準備技法論 -ステージ・フライト（舞台でのあがり）を乗り越える-」（あいり出版）という書籍を初めて出版いたしました。

「ステージ・フライト」は、演奏者なら誰もが経験し、誰もが克服したいと考えていると思います。私もその一人で、どうしたら本番であがらないで、自分の最高の演奏ができるのだろうかと模索してきました。

ちょうど10年位前に、「あがりの軽減なら、自律訓練法が有効ですよ！」と教えて下さった先生と出逢いました。その先生はいつも穏やかで、お話しをするだけで楽な気分になりました。また、「あがりは悪いことではなく、むしろパフォーマンスには大切なこと」とご指導下さり、それを聞いた瞬間から気持ちが楽になり、あがることを受け入れようとポジティブになりました。

そうは言っても最初は半信半疑でしたが、習得が進むにつれて、本番を迎えるまでの過度なストレスがなくなっていること、また、日常から心の落ち着きが得られ、眠りも深くなり、いつも気分がすっきりしていることに気づきました。早速、授業に取り入れたところ「試験であがらなくなった」等と学生にも好評でした。演奏会本番でも「以前とは緊張の質が違う」と感じられ、演奏される方々に是非とも活用していただき

たいと、継続してきた研究をまとめた次第です。

1冊の本を完成させるまでに、何と沢山の方々に並々ならぬご協力を頂いたことでしょう。自律訓練法をご教示下さった先生、研究に対するアドバイスをして下さった研究者、本学の学生や愛知芸大の同窓生、編集者……

出版の喜び以上に、感謝の思いでいっぱいです。

本書は、演奏者がステージにおいて、精神面のコントロールを最適に整え、日頃の実力を十二分に発揮するために、音楽分野ではじめて自律訓練法の応用を提案したものです。自律訓練法を「ステージ・フライト」（あがり）抑制法の一つの方法として提案することで、音楽分野のメンタル・トレーニングの研究が、今後推進されることを期待するとともに、教育分野や研究活動における「あがり」対策、芸術全般や研究時のイメージ想起、また、広く一般的な「あがり」の抑制にも応用していただければと思います。

其々の演奏者が、これまで以上にあがりを克服し、自己の最高の演奏を実現することで、ステージで演奏することがもっと楽しい！素晴らしい！！幸せ！！と感じられる場になることを心から願っています。

【随筆】 クリエイティブ・ミュージック・フェスティバルをご存じ？……

寺内 大輔（作曲・パフォーマンス）

クリエイティブ・ミュージック・フェスティバルは、1998年に始まった音楽祭である。毎年夏に開催され、田舎でのんびりと3日間を過ごしながらか、招待講師によるワークショップや、参加自由のコンサート、参加者同士の交流が行われる。

私も、これまで度々参加してきたが、その内容は実に面白い。小さな音の出るものを持って闇夜に隠れ、聴覚を頼りに自分のパートナーを探す「音のかくれんぼ」や、プールの中で音を出す「水中セッション」など、音遊びや即興表現に関係する興味深いワークショップが数多く行われてきた。

全国から集まる参加者達の関心も、音楽教育、音楽

療法、即興演奏、演劇、ダンス、美術、詩など多方面に渡っている。そのため、コンサートでは自然と多領域が入り混り、興味深い表現が生まれる。

今年の招待講師は、藤枝守、安野太郎、杉浦未樹の3名。いずれも刺激的な活動を展開しているアーティストで、とてもわくわくしている。

会場は広島県だが、県外からの参加者のために送迎バスも準備している。日本音楽表現学会の皆様にも、ご参加を心からお薦めしたい。

なお、詳細はこちらをご覧ください。

<http://dterauchi.com/infomation2.htm>

新入会員紹介

個人情報につき削除

会員によるコンサート案内

(日本音楽表現学会後援のみ)

鈴木 雅宣さん

尺八音楽を楽しむ会

日 時：2009年6月21日(日) 14:00-16:00

会 場：かじまちヤマハホール 浜松市中区鍛冶町 321-6 電話 053-454-4111

後 援：日本音楽表現学会

趣 旨：日本の伝統楽器「尺八」をより多数の人に親しんでいただくことを目的とする。

主な内容：尺八の伝統的音楽を紹介しながら、西洋音楽や中国音楽も尺八や箏で演奏することの楽しさを盛り込んだプログラムを編成した。

連絡先：鈴木雅宣 ^{ミズノマサノブ} 053-924-0365

中村 隆夫さん

札幌コダライ合唱団・千歳フィルハーモニーオーケストラジョイントコンサート

日 時：2009年6月21日(日) 13:00 開場、13:30 開演

会 場：札幌コンサートホール Kitara 大ホール

後 援：日本音楽表現学会

趣 旨：2つの都市でそれぞれに活動を行っている団体が協力し、市民にも合唱への参加を呼びかけてコンサートを開催する。

出 演：中村隆夫(指揮)、札幌コダライ合唱団、千歳フィルハーモニーオーケストラ

ソプラノ：一鐵久美子 パリトン：中原聡章 オルガン：山田悦子

曲 目：ブラームス「ドイツ・レクイエム」 Op.45、「悲劇的序曲」 Op.81

連絡先：Tel. 011-640-5557 (吉田) <http://sapkodaly.cool.ne.jp>

- 木下 千代さん ユルンヤーコブ・ティム 木下千代 デュオのタベ
 日 時：2009 年 7 月 6 日 (月) 19:00
 会 場：ザ・フェニックスホール (大阪)
 後 援：日本音楽表現学会
 趣 旨：ライブツィヒゲヴァントハウス管弦楽団首席チェロ奏者ティム氏とのアンサンブル。2006 年に続き 2 度目の共演
 曲 目：ベートーベン：魔笛の主題による 7 つの変奏曲、シューベルト：アルペジオーネソナタ D.821、ブラームス：3 つの間奏曲 op.117 (ピアノソロ)、チェロソナタ第 2 番 op.99
 連絡先：大阪アーティスト協会 06-6135-0503
- 小山 和彦さん ピアノサウンズ ー回想～本間雅夫～新生ー
 日 時：2009 年 9 月 8 日 (火) 19:00 開演予定
 会 場：イズミティ 21 小ホール (仙台市泉区) 共 催：日本現代音楽協会
 後 援：日本音楽表現学会、(株)ヤマハミュージック東北仙台店 河北新報社(予定)他
 趣 旨：仙台在住の作曲家による新作の初演、および、昨年 6 月に逝去した本間雅夫の作品を演奏し、ピアノ独奏、連弾曲のこれからの可能性を追求する。
 曲 目：小山和彦の新作、他
 本間雅夫：ピアノ曲第 3 番～おどり～ 寂響 VI ピアノサウンズ III ピアノのためのクロス・モード II インタープレイ II～ピアノ連弾のための～
 演奏者：小山和彦、赤城眞理、赤城ケイ、阿部玲子、櫻田薫、他
 連絡先：仙台コンサートソサエティ 022-264-3074
- 中村 隆夫さん 札幌コダーイ合唱団・合奏団 ヘンデル「メサイア」演奏会
 日時と会場：2009 年 12 月 11 日 (金) 18:30 開演、札幌北一条教会
 2009 年 12 月 12 日 (土) 15:00 開演、小樽マリナーホール
 後 援：日本音楽表現学会
 趣 旨：バロック作品として親しまれている「メサイア」の演奏。高校合唱部や市民にも参加を呼びかけ、バロックの様式を意識した演奏を目指す、
 出 演：中村隆夫 (指揮)、札幌コダーイ合唱団・合奏団 ソプラノ：針生美智子
 アルト：東 園巳 テノール：佐藤淳一、バス：佐野 航 (交渉中)
 連絡先：Tel. 011-640-5557 (吉田) <http://sapkodaly.cool.ne.jp>
- 澤田 まゆみさん ドビュッシー頌 Ⅲ 連弾曲 <ピアノ四手> 澤田まゆみ&須江太郎
 日 時：<東京公演>2009 年 12 月 10 日 (木) 19:00
 <高崎公演>2009 年 12 月 13 日 (日) 14:00
 会 場：<東京公演>カワイ表参道 コンサートサロン「パウゼ」
 <高崎公演>榛名文化会館 エコール 小ホール
 後 援：日本音楽表現学会
 趣 旨：ドビュッシーの連弾作品の演奏をととしてドビュッシーの魅力に迫る
 主な内容：交響曲、放蕩息子、6 つの古代碑銘、小組曲、牧神の午後への前奏曲 (ラヴェル編曲) 他
 連絡先：info@sawadamayumi.com

会 員 に よ る 新 刊 案 内

香曾我部琢さん、今 由佳里さん、木村 貴紀さん、鈴木慎一朗さん、(他、共著)

『実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現』

保育出版社 ISBN978-4-938795-78-8 2477 円+税 2009 年 3 月

奥 忍さん(共著) 『中学校・高等学校教職課程 音楽科教育法：2009 年度改訂版』

教育芸術社 ISBN978-4-87788-394-2 2,100 円(税込) 2009 年 4 月

後藤 丹さん

『後藤丹編曲・解説サン・サーンス作曲 組曲＜動物の謝肉祭＞ピアノ独奏版』

全音楽譜出版社 2009 年 5 月

古庵 晶子さん、篠原真紀子さん(他、共著)

『どこからはじめても OK なるほど! バイエル(1) (2)《すべての人と幼児教育をめざす人のために》』

サーベル社 菊倍/84 頁 1470 円(本体 1400 円+税) 1 巻 2009 年 4 月・2 巻 5 月



日本音楽表現学会論文集『音楽表現学のフィールド』(仮題)

公募論文(アブストラクト)募集

日本音楽表現学会では、これまでの本学会の歩みをふまえて、「音楽表現学」というフィールドのさらなる発展を目指すために、2部構成の「論文集」(単行本)を出版する運びとなりました。

その第1部は研究発表大会におけるシリーズ研究の集成、そして、第2部には会員からご投稿いただいた論文を掲載します。

第2部の公募論文につきましては、提出いただいたアブストラクトにもとづき、編集委員会にて選定させていただきます。下記募集要項をご覧の上、ご応募ください。会員の皆様からの積極的なご応募をお待ちいたします。

第2部公募論文募集要項

1. 公募論文：以下の趣旨にふさわしい論文(掲載本数は5本程度を予定しています)

これまでの本学会の歩みをふまえて「音楽表現学」の今後の発展の方向性という視点から自分の専門的研究を位置づけ、その可能性の開拓に寄与するような研究論文で次のa～dの各分野に該当するもの。

- a. 音楽表現に関する哲学的・思想的探究
- b. 音楽創造・再現等、表現技法の開発
- c. 音楽表現に関する知覚・認知の研究

d. 音楽表現に関する感性と能力の育成

2. 応募方法：

(1) アブストラクト(1200字程度)をメールのファイル添付または郵送で、学会事務局に提出してください。書式は次頁または学会HPをご参照ください。
<http://www.soc.nii.ac.jp/jmexs/kikanshi/kikanshi-bosyu.html>

(2) アブストラクトには必ず、上記1に示したa～dの各分野から該当分野を付記してください。

3. アブストラクトの締切：

2009年8月25日(火) 必着

4. 提出先：日本音楽表現学会事務局

music-expression@music-expression.sakura.ne.jp
〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-4-3-801
安田香気付

5. 選定方法：提出いただいたアブストラクトにもとづき、内容、第2部の趣旨との整合性、各分野のバランス等を考慮して編集委員会にて選定します。

6. 採否決定の連絡：

2009年9月上旬に事務局からお知らせします。

6. 採択決定者の本原稿締切：2009年11月30日（月）

公募論文応募アブストラクト様式

氏名		
所属		
連絡先	メールアドレス	
	住所	〒
	Tel/Fax	
論文タイトル		
分野（右記に○を付けてください）		a. 音楽表現に関する哲学的・思想的探究 b. 音楽創造・再現等、表現技法の開発 c. 音楽表現に関する知覚・認知の研究 d. 音楽表現に関する感性と能力の育成
アブストラクト（1200字程度）		



事務局からのさまざまなお知らせとお願い

1. 会費納入について

- 年会費（4月～3月）は正会員 5,000 円、学生会員（学部生） 3,000 円です。
- 学会は皆様方の年会費で運営されております。機関誌の発行、大会の開催などさまざまな活動に支障をきたすことのないよう、会員の皆さまには速やかなご納入をお願いいたします。
- 納入は必ず郵便振替でお願いします。無意識滞納対策の一助として、納入後はただちに、右側の「振替払込請求書兼受領証」（ATM ご利用 の時は「ご利用明細票」）に、各自で納入年度のメモをお残しいただくことをお勧めいたします。なお、学会では原則として改年度の領収書発行はいたしておりません。
- 今年度分を含め、会費が未納の会員には、今回同封の「払込取扱票」にお名前とお払いいただきたい年度を事務局で記入しています。今年度の総会において、3年以上年会費滞納の場合には「除名」が適用されることとなりました（本誌 p.7 「5」日本音楽表現学会会則の改正）をご覧ください。なお、行き違いご送金済みの場合はご容赦ください。
- ATMでの納入をお勧めいたします。会計上も助かります。（窓口:120 円、ATM:80 円）
- * 以上、ご不明の点につきましては、事務局までお問い合わせ下さい。

2 『音楽表現学』バックナンバー購入方法

ご希望の方はメールで事務局までお申し込みください。以下の代金は、到着後郵便振替でお願いします。
 会員価格：Vol.2～Vol.3 は 1 部 1500 円＋送料、
 Vol.4～Vol.6 は 1 部 3000 円＋送料、
 一般価格：Vol.2～Vol.3 は 1 部 3000 円＋送料、
 Vol.4～Vol.6 は 1 部 3500 円＋送料、
 大学図書館などへの納入については事務局にお問い合わせください。
 なお、Vol.1 は残部がありません。

3. ニュースレターへの投稿

ニュースレターは会員の交流の場です。音楽表現に関するご意見、掲載記事に関するご意見などを掲載します。テーマは何に関しても自由です。皆様の投稿をお待ちします。

- ・研究ノート、随想など：1600 字以内
- ・コンサート案内：学会後援のものを掲載します。
- ・新刊案内：会員による刊行物の紹介を行います。上梓されたら購入方法なども含めてお知らせください。
- ・その他：所属されている他学会の情報などもお寄せください。
- ・投稿受付は随時、事務局宛ワードの添付書類でお願いします。

学会事務局：

music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

4. 学会の会員サポート制度をご活用下さい。

- ・研究発表の場の一つが機関誌『音楽表現学』です。本学会は「日本学術団体」の広報協力団体です。『音楽表現学』に論文が掲載されると、大学などでは「査読付学術論文」としての評価を受けます。年度末などに業績の報告をされる際には、その旨をお記下さい。
- ・大会の口頭発表は、日本音楽表現学会ならではの表現力を駆使して、文字だけでは伝えられない音声を用い、これまでの研究を発信できる場、それを参加者一同が共有できる場です。会員自身の音楽表現の創意や工夫、実践を披露し、その妥当性を問うワー

クショップなど、日本音楽表現学会ならではの生の音楽表現を含めた発表の機会をご利用下さい。

- ・コンサートの後援とご案内：会員による各種演奏、ワークショップ、イベントなどの活動を学会は「後援」します。ニューズレター最終頁の「後援願」の様式でお寄せください。

5. 各種書式

2009 年度総会の決定を受けて各種書式の更新を行います。今後は以下の書式を参考の上、メール本文貼り付け、またはワード文書添付、あるいは郵送で事務局まで送付してください。

(1) 「入会申込書」書式

入 会 申 込 書	
日本音楽表現学会に入会を申し込みます。	
年 月 日	
氏 名 (ふりがな) :	_____
専門分野 :	_____
住 所 :	〒 _____
所 属 :	_____
連絡先 :	_____
連絡先電話番号 :	_____
連絡先 Fax 番号 :	_____
e-mail アドレス :	_____
推薦者名 (学会員・1名) _____	
音楽表現学会に期待されること。ご意見等 :	_____

〔備考〕

学会からの連絡（印刷物お届けなど）は、ご記入いただいた「連絡先」に送ります。

お届けいただいた情報は、事務局で厳重に管理し、学会事務以外の使用目的には供しません。

(2) 「退会願」書式 :

退 会 願	
〇〇〇〇年〇月〇日	
日本音楽表現学会 会長 〇〇〇様	
このたび、日本音楽表現学会を退会したいので「退会願」を提出いたします。 なお、今年度分までの会費は納入済みですのでご確認をお願いいたします。	
氏 名 :	_____
連絡先 :	_____
連絡先電話番号 :	_____
e-mail アドレス :	_____
退会理由 :	_____

(3) 「後援願」書式

次頁の「後援願」の書式を参考の上、メール本文に貼り付け、ワード文書添付、または郵送で事務局まで送付してください。「後援願」が受理されれば、「後援願受理のお知らせ」文書がお手元に届きます。ポスターやチ

ラシの印刷に後援名義が間に合うよう、ゆとりを持って「後援願」をお送り下さい。また、受理されたコンサート等は学会 HP に掲載します。

コンサート等後援願	
日本音楽表現学会の後援をお願いします。	
年 月 日	
氏 名：	_____
所 属：	_____
コンサート等の名称：	_____
コンサート等の趣旨：	_____
主な内容：	_____
期 日：	_____
会 場：	_____
連 絡 先：	_____

日本音楽表現学会第8回大会のご案内

会場：京都女子大学（京都市東山区今熊野北日吉町 34）

期日：2010年6月12日（土）－13日（日）

会場：京都女子大学（京都市東山区今熊野北日吉町 34）

期日：2010年6月12日（土）－13日（日）

JR「京都駅」

- 烏丸口より市バス約10分
「東山七条」で下車、徒歩10分
- 八条口プリンセスラインバス約10分
「京都女子大学前」で下車

日本音楽表現学会 役員名簿		編 集 後 記
会 長：	奥 忍	論文著作権やリポジトリの問題など難題に遭遇しながら、私たち理事は2期目を迎えました。そんな中、20 ページに及ぶこのニューズレター2009-No.1の編集過程で、微力な私が強く感じたことがあります。 それは、巻頭言の最後に谷口理事が述べておられる私たちの学会設立趣旨に込められた「やさしさ」と、設立に集った方々の「熱き思い」そのまを、膨大な理事メールの一字一句からいつも感じる事ができたことです。 軌跡として残ることのない「やりとり」の中に、この学会の奇跡をみました。自画自賛のように感じられたらどうかご容赦下さい。 さあ、夏真っ盛りです。みなさん、暑さに負けない熱い心でステキな夏をお過ごし下さい。 （土門裕之）
副 会 長：	佐々木正利 安田 香	
理 事：	権藤 敦子 谷口 雄資	
	土門 裕之 柳井 修	
会 計 監 事：	加藤 晴子 長岡 功	
編集委員長：	小西 潤子	
委員：	伊野 義博、河本 洋一	
	木下 千代、小畑 郁男	
	佐野 仁美	